

未来にはばたけ 希望の九小
ふれあい じっくり あたかく

九小だより

令和6年3月8日(金)発行
府中市立府中第九小学校
校長 生井 信太郎



特別号

令和5年度学校評価について

校長 なまい 生井 信太郎

弥生の候、保護者の皆様、地域の皆様におかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また日頃より本校の教育活動に対して、ご理解とご協力をいただきまして、ありがとうございます。

さて、例年よりも時期が遅くなりましたが、1月中旬に保護者の皆様に、2月上旬にかけては本校児童に、令和5年度の学校評価を実施いたしました。大変多くのご協力をいただきまして、ありがとうございました。学校評価の結果がまとまりましたので以下にご報告申し上げます。今年度、いただきました貴重なご意見から本校の課題を見出し、次年度の教育活動を改善するための材料とさせていただきます。

今後とも本校の教育活動への変わらぬご理解とご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。



調査時期と調査方法

児童アンケート 1月22日から2月3日までの任意の一日、全学級で一斉に回答を実施しました。

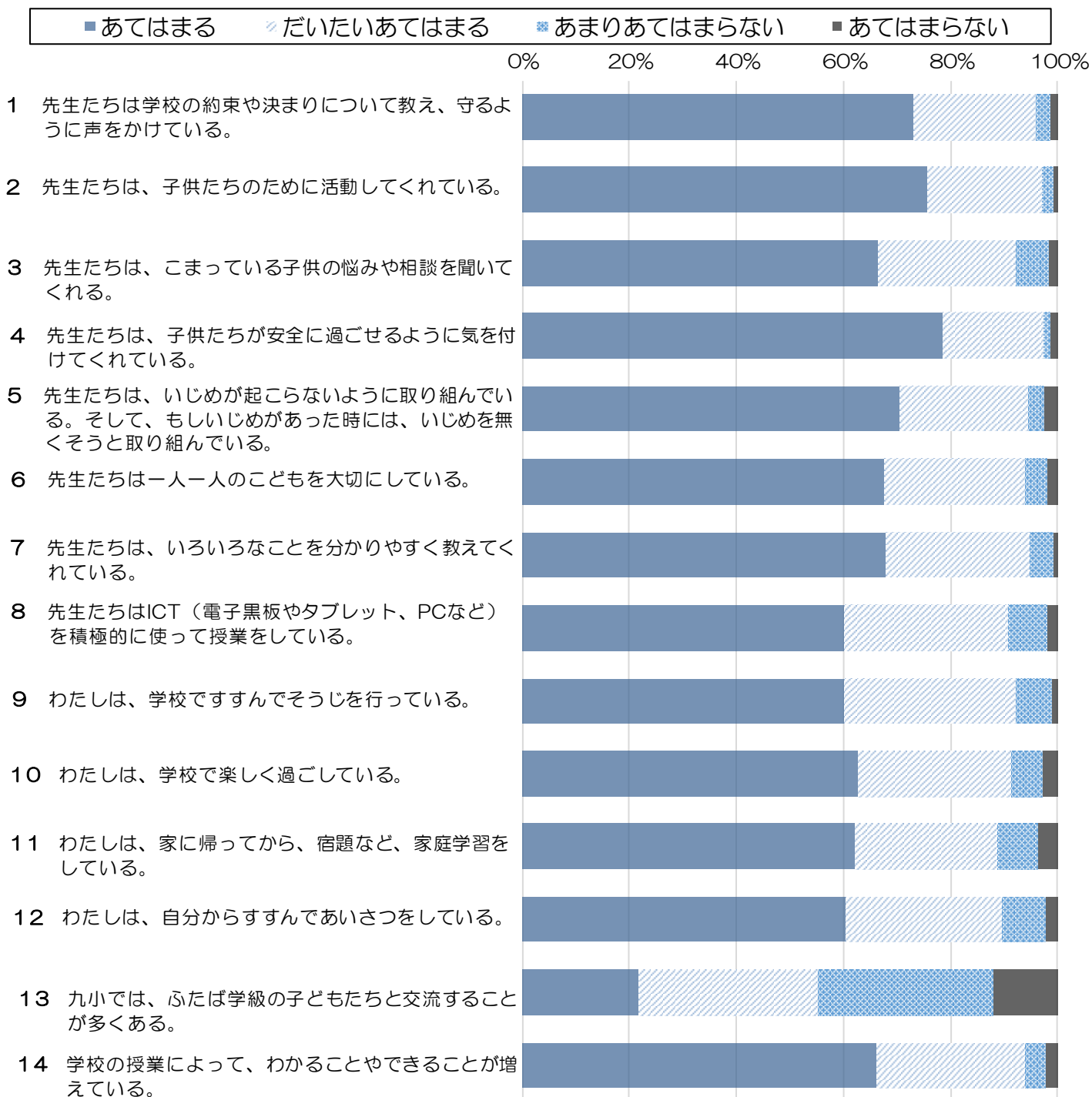
保護者アンケート 1月15日から1月22日に回答をお寄せいただきました。

両方とも「Google フォーム」を使って実施し、得られたデータを数値化、グラフ化しました。

全体的な傾向

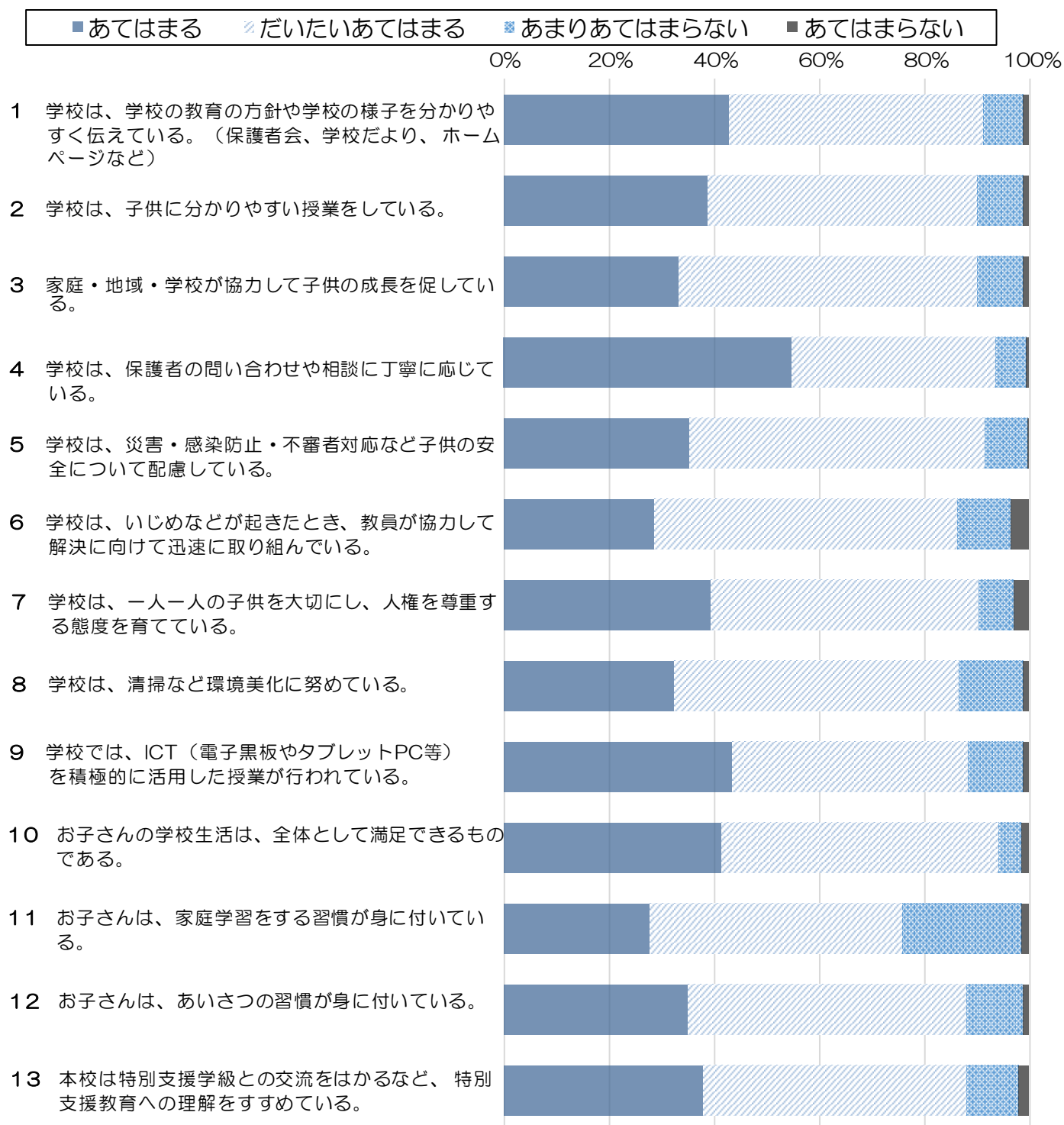
- 令和4年度に比べて児童アンケートの回答数が240→409件に、保護者アンケートの回答数が162→240件に、それぞれ大幅に上昇し、より精度の高い学校評価にすることができました。
- 児童アンケートと保護者アンケートの両方で、肯定的な評価（「あてはまる」と「だいたいあてはまる」という回答数の合計）が9割を超える項目が多く、好意的な評価を得られていることを見とることができます。
- 児童アンケートと保護者アンケートの両方で、どの項目においても「あてはまる」という回答率が最も高く、「あてはまらない」という回答率が最も低くなっています。
- 児童アンケートと保護者アンケートを比較すると、「あてはまる」という評価が児童に多く、保護者では少ない傾向にあります。
- ICTの活用（児8と保9）について、マイナスの捉えが目立つことから、より一層の活用と活用についての情報発信が求められていると考えられます。
- 家庭学習（児11と保11）について、肯定的な評価が低く、かつ児童と保護者の評価の差が大きい傾向にあります。家庭学習への意欲を高め、充実させるための手立てが必要です。
- 特別支援に関する項目（児13、保13）で評価が分かれています。一層の充実と特別支援に対する理解を広げるために、学校からの情報発信が必要と思われます。

【児童】教育活動へのアンケート



- 安心、安全に関する項目（児3、児4、児5、児6）の評価が非常に高く、子供たちは大切にされているという実感をもてていると読み取ることができます。一方で同項目に「あてはまらない」という回答が少数ながらもあり、次年度に向けた大きな課題です。引き続き児童の安全と安心を確保できるよう、迅速で確実な対応を行っていきます。
- ふたば学級との交流に関する項目で評価が低い。普段、学校行事（運動会や学習発表会、校外学習等）を通して、低学年から交流を継続していることが、実感としてもてていないことも考えられます。また質問項目が「交流することが多くある。」となっていることが、評価が下がる一因とも捉えられます。引き続き交流活動を継続しながら、児童への意識づけを行っていきます。
- 今年度新たに起こした項目（児14）の肯定的な評価9割を超えており、児童が学び、学力を伸ばしていることを実感し、自己肯定感を高めることに繋がっていると思われます。

【保護者】教育活動へのアンケート



- ICTの活用に関する項目（保9）の評価が比較的低くなっています。授業の中でのタブレット活用の機会を増やし、効果的な学習の場を創造すると同時に、学校公開日を有効に活用し、児童の学びの様子とICTの活用の場を観ていただく機会を増やす必要があります。
- いじめに関する項目（保6）において、肯定的な評価が圧倒的に多い反面、「あてはまらない」という評価が3.9%ある。普段から教職員でいじめに関する情報をより多く共有し、校内で心配な事態が発生した場合は迅速かつ組織的に対応していますが、いじめへの対応に関する情報（校内におけるいじめ対策委員会やいじめ対応マニュアル）をより多く発信することも大切にしていきます。

- ・家庭や地域との連携に関する項目（保3）の「あてはまる」の評価が少ない反面、本校でのPTA活動は大変盛んであるといえます。コロナ禍が終わり、より多くのPTA行事や地域行事が復活していて、九小まつりは非常に盛況でしたし、青少対の実施した交流綱引き大会（4年生以上）には70名以上の児童が参加しました。保護者の皆様に実感していただける形でこれらの取り組みを充実させていきます。
- ・環境美化に関する項目（保8）の「あてはまる」の評価が低くなっています。用務主事の人手が不足していること、そして施設の老朽化が主な原因と思われるが、より一層の環境整備を行い、府中市教育委員会とも連携しながら、学習環境の改善を図ります。
- ・児童の人権に関する項目（保7）の「あてはまらない」の評価が2.9%となっています。今年度、校内研究で人権尊重教育の研究を進め、授業や研修等の中で人権への意識を高めたところではあるが、引き続き本校の取り組みについての情報を発信するとともに、インクルーシブ教育や特別支援教育について、保護者、地域の理解を深める取り組みを継続していくと同時に、教職員の人権意識を更に高める取り組みを継続していきます。
- ・特別支援学級との交流に関する項目（保13）の肯定的評価が低くなっています。学校として特別支援学級との交流を充実させ、特別支援に関する理解を深める機会をつくるのと同時に、保護者への具体的な情報を伝える機会を増やすことも求められます。
- ・今年度、新たに創設した、児童の学校への満足度に関する項目（保10）の肯定的評価、とりわけ「あてはまる」という回答が非常に多くなっています。特に「あてはまらない」の回答は0であり、引き続き児童の学校への満足度をより良いものにするための意識を大切にしていきます。
- ・家庭学習に関する項目（保11）の評価が他に比べて低くなっています。学年や学級で、宿題や家庭学習（自学ノート等）のばらつきが大きいことも一因であると思われます。家庭学習の充実は、学力向上と密接な関係があるものであり、学校全体として家庭学習の充実や宿題、課題等について各学年で実態にあった内容にし、意義のあるものにできるように、研修等で教職員の意識を高めていきます。

前年度との比較

【児童アンケート】

- ・ICTの活用に関する項目が、昨年度に比べて6.8ポイント向上した。校内でのICTの活用が進み、児童の活用スキルも向上したことが伺えます。今後もより積極的な活用を推進し、児童の学習効率を高めていく必要があります。
- ・学校生活への満足度に関する項目（児10）の肯定的評価が、4.2ポイント向上しています。日々の学習活動や学校行事が充実し、全体的に対人関係が良好であることを読み取ることができます。引き続きより多くの児童に楽しく学校生活を送ってもらえるよう、努力を継続していきます。

【保護者アンケート】

- ・家庭学習に関する項目（保11）の否定的評価が10.6ポイント増加しています。ICTの活用に関する項目が、昨年度に比べて6.8ポイント向上しています。校内でのICTの活用が進み、児童の活用スキルも向上したことが伺えます。今後もより積極的な活用を推進し、児童の学習効率を高めていきます。
- ・環境美化に関する項目（保8）の肯定的評価が5.3ポイント減少しています。経年劣化もありますが、病気休養をしている用務主事の不在が影響していることが大きな要因と思われます。本人の健康の回復を待つのと同時に、府中市教育委員会と折衝し、より手厚い対応を求め、環境美化に努めてまいります。
- ・学校の情報公開に関する項目（保1）の肯定的評価が5.1ポイント減少しています。学校だよりや学年だより等における情報発信をより充実させるのと同時に、学校ホームページの更新頻度を高め、より多くの情報を保護者のもとに届くようにしていきます。また、学校公開の日数を増やし、実際に本校の教育活動を観ていただくための機会を増やすことも大切だと思われます。

※昨年度の学校評価アンケートの結果は、昨年度の学校だより1月号に掲載してあります。また学校ホームページからもご覧いただくことができます。どうぞご確認ください。